

[平成29年度 事業計画書]

本年度は、当財団設立48年目（公益法人移行後8年目）に当たりますが、引き続き学術研究と社会福祉事業に対し重点的助成を行なうことと致します。

年間「助成総額」については、平成29年度も超低金利の続く大変厳しい資金運用環境が想定されますが、平成26年度から平成28年度までの3年間で拠出会社より拠出金計60億円頂いたことを受け、前年度予算比32百万円増額となる「455百万円」とする計画と致しました。

本年度事業の具体的内容は次の通りです。

1. 学術研究を行なう者に対する研究費の助成

(1) 自然科学研究費の助成金として300百万円を目途とする。

(前年度比+20百万円)

下記基準による公募案件につき、厳選の上、実施する。

自然科学のすべての分野にかかわる独創的かつ先駆的研究を支援するとともに、既成の概念にとらわれず、新しい発想で複数の領域にまたがる研究にも期待して助成を行なう。

・選考委員 佐藤勝彦 委員長 ほか委員9名

(2) 人文科学研究費の助成金として60百万円を目途とする。

(前年度比+2百万円)

下記基準による公募案件につき、厳選の上、実施する。

人文学分野、及びそれに関連する分野からなる、人文社会系研究全般を対象とし、基礎的かつ着実な実証研究の内、特に優れたものに対し選考の上、助成を行なう。

・選考委員 岸本美緒 委員長 ほか委員4名

2. 社会福祉に関する事業・研究に対する助成金として90百万円を目途とする。(前年度比+8百万円)
下記基準による公募案件につき、厳選の上、実施する。
- イ. 現行制度上、公の援助を受け難い、開拓的ないし実験的な社会福祉の向上に資する民間の事業(原則として法人に限る)
 - ロ. 開拓的ないし実験的な、社会福祉に関する科学的調査研究(個人・法人等いずれも可)
 - ハ. 関係当事者がプロジェクトチームを形成し、同一の社会課題に対し、より多角的に、ダイナミックに挑戦する提案型の応募
- ・選考委員 水田邦雄 委員長 ほか委員5名

3. 諸事業費助成金として5百万円を目途とする。(前年度比+2百万円)
従来通り、学術研究並びに社会福祉の向上に必要な諸活動・諸事業に対し、補完的に臨機、適切な援助を行なう。また、自然科学、人文科学、社会福祉等の分野の複合領域等、これまでの個別助成部門では、十分な対応が困難な新分野の研究対象等についても、関係選考委員等の協力も得て、引き続き試行的開拓に努めることとする。加えて、公益事業の発展に資する調査・研究、情報発信等の諸活動についても支援する。

上記、1～3の各分野の助成金合計額455百万円を上限としますが、各分野ごとの助成金額は目途であり、応募状況等を勘案し、柔軟に対応することができるものとします。

4. 平成30年度助成事業及び50周年記念事業に対する準備等

平成29年度助成の決定並びに贈呈の実施終了次第、引き続き平成30年度助成に関する諸準備を行ない、その募集も開始します。また、平成31年度に迎える当財団50周年に向け、50周年記念事業及び50周年記念事業積立金積み立ての検討を行ないます。

以上